

平成28年度第1回郡上市総合教育会議 要録

日 時 平成28年6月28日(火)
開会 15時30分 閉会 17時25分

会 場 郡上市役所 4階委員会室

出席者 郡上市長 日置 敏明
教育長 石田 誠
教育長職務代理者 原 初次郎
委 員 杉本 尚之
委 員 清水 るみ子
委 員 水野 秋子

【オブザーバー】

市長公室長 三島 哲也
教育次長 細川 竜弥
農林水産部長 下平 典良
商工観光部長 福手 均

【陪 席】

教育委員会学校教育課長 羽土 聡
教育委員会教育総務課長 一柳 芳之
教育委員会教育総務課長補佐 長尾 英行

【事務局】

市長公室次長兼企画課長 置田 優一
市長公室企画課主幹 石田 紀美江

議 事 (1) 平成28年度総合教育会議のテーマについて

市長あいさつ

地方教育行政法の改正により首長と教育委員会とが教育課題等に関して連携をとっていくという趣旨を基に総合教育会議を設けることになった。昨年度は総合教育会議の場において郡上市教育大綱策定で議論をした。また学校の児童生徒の危機管理について連携を密にすることも話し合った。教育大綱は策定すれば済むものではなく教育大綱に基づいた教育或いは市政を進めていくために今後も議論が必要と思っている。今日は総合教育会議で論議したいテーマとして、「高等学校のあり方」を提案する。県教委は今後の高校教育のあり方について

検討している。考え方として望ましい学校規模を1学年4～8学級と示しており、3学級以下の小規模校は県内に10校あり郡上北高が該当する。すでに郡上北高は今後のあり方について独自に検討を進められており、市においても市教育委員会を中心に高等学校のあり方の検討が始まっている。総合教育会議においても「高校教育の今後のあり方」を本年度の重要なテーマという認識のもとに協議させていただきたい。ただそれだけに限らず必要があれば他のテーマも取り上げていきたい。今年度の総合教育会議の趣旨を説明しあいさつに代える。

教育長あいさつ

就任して初めての総合教育会議である。この会の目的は3つある。

1つ目は郡上市教育大綱の策定と平成30年度までの具現化、2つ目は子どもの生命や身体に障害等生じる恐れがある場合の協議調整、3つ目は教育を行うための諸条件とか整理を郡上の実態に合わせて図っていくことの検討である。今後児童生徒数が減っていく中メリットを最大限に活かし、デメリットを克服する会議になれば良い。教育施策の方向を共有し一致団結して施策を具現化していくためにこの会議が充実することを期待する。

出席者紹介

【議 事】

(1) 平成28年度総合教育会議のテーマについて

※平成28年度総合教育会議のテーマ(案)について・・・資料-1に基づき、事務局説明

市長：県も一定の動きがありそれを受けて郡上北高の動きもある。教育大綱の基本方針すべてのことに関わっている。郡上市の教育をどうしていくかいろいろな角度から議論頂きたい。

テーマの設定についてご意見はないか。

委員：県立特別支援学校の高等部は高等学校の範疇には入らないのか。入るのであれば除外なく入れていただきたい。

市長：郡上市における高等学校教育のあり方というテーマからすれば当然入る。

※郡上北高校「学校活性化協議会」について・・・資料-2に基づき、教育長説明

※郡上の高等学校の望ましいあり方の提言について・・・資料-3に基づき、教育長説明

市長：郡上市にとって県立2校は無くてはならない存在であり、昨年10月に県教委へ提言した経緯がある。

今日は初回であり、資料に関わる事や郡上市の直面している高等学校教育について自由なディスカッションとさせていただく。市内中学校卒業生進路状況も参考にご覧いただきたい。この問題にどう取り組むか。今後子どもの数が減ることにどう対応するか。中学卒業生の約2割が市外へ進学することをどう考えるか。

子どもたちが夢や希望を持ちながら成長していくことを考えなければいけないが、地域の存続や担い手の確保も大きな問題。いろいろな問題を検討する必要がある。お感じのことを順に発言していただくようお願いする。

委員：郡上北高を残そうとする姿勢は市全体で取り組む必要がある。

委員：市内の子ども数はおおよそ決まっているので、高校にゴルフ場やスキー場などを活用した学科を考えることも人を集めることからいけば有効ではないか。

委員：市外から市内2校に通学している生徒は何らかの魅力があって選んでいる。特色ある学科やコースの編成とあるが、レクリエーションスポーツ系アウトドアインストラクター養成学科は郡上ならではの良いアイデアと思った。

あと少数ではあるが学校へ通いにくい生徒であっても、市内で高校まで通学できる方法はないか。

委員：全国から子どもを集められるような大きな案が打てると寮や宿舎へ泊ることに繋がって良い。

委員：特色ある学科やコースについては、10年後20年後を見据えた他所とは違う発想ができるとうい。

委員：目的をもった生徒は期待できる。郡上北高生が活躍している情報を公表しアピールしていくことが大切。

市長：郡上北高在学中に難度の高い資格を取ったり、卒業生が公認会計士を取得するなど優秀な生徒がいることもおおいにPRすべき。やる気のある人が集まることが大事。学科の面で特色を持たせることは市外への流出がとまり、市外から来てもらえる可能性が出てくる。クロスカントリー公認コースが高驚にできた。アウトドアインストラクターの養成についても定住者の呼び込みもする。高等学校教育や専修学校的な学校のあり方を検討する必要がある。特に郡上高校では卒業生の約1割しか実社会へ入らない。郡上に工業科が欲しいといわれる。

委員：企業は専門技術をもったすぐ戦力になる子に来てほしい。

市長：入社してから教育するという企業もある。真面目にやってくれる人材が欲しい。森林科学科卒業生でも市内企業に向いてくれないというミスマッチがある。

委員：連携型中高一貫教育になって効果はあるか。

教育長：高校にも学級経営が浸透した。生活習慣や身だしなみや挨拶がしっかりしてきたことがひとつの効果であり、中学校からの情報共有や個別指導を行うため成果を上げてきている。白鳥中から郡上北高への進学は従来より増加している。

委員：小中一貫より中高一貫の方が年齢的や成長の過程において効果的でないか。

市長：中高連携が郡上北高への進学を後押ししている。郡上の子どもたちの高校教育とはどうあるべきかという視点から考えていかなければいけない。

委員：郡上をみんなで考えていくのであれば活性化協議会と「郡上の高等学校教育のあり方を考える会」との交流はあるのか。

市長：別の動きをしているがメンバーは重複しており、総合教育会議での議論は両方の組織へ反映させていく。

市として2校の存立を求めるといふ大義をどこにおいていくか。北高の3クラスで存立させると郡上高のクラス編成を減らしてでも両校で特色を持った教育維持をしていこうという発想になる。それが子どもたちのしあわせに繋がるかという議論が出てきたときにどうか。郡南中は市外へ通う子が多い。市内に来てほしい。

教育次長：以前の調査で郡南中が下（しも）へ流れる理由が通学時間と費用と学科だった。

※平成28年度のスケジュールについて・・・資料-1に基づき、事務局説明

市長：高校教育を考える時に特別支援学校高等部も視野において議論していく。特別支援学校の小中学部と高等部があるが、市として高等部のあり方、卒業生のその後の受け入れ、進路などお感じになっていることはあるか。

委員：一番話題になるのが小中学部と高等部が離れていることと公共交通機関で通えるとその先就労に役立ち良いということ。

市長：新しい課題と絡めた解決方法があるかもしれない。

県教委の10月の発表は、小規模学校が来年度の受験生の募集等に間に合わせるように学校の特色をアピールできるような検討にとどまるのか。検討しているうちに突然方向や早急に結論を出すという訳ではないという県教委の説明と受け取ってよいのか。

室長：県教委も残す方向で活性化計画を立ててほしいといわれた。

市長：本日は入り口論であり、議論するには重い課題だがよろしく願いたい。また、教育大綱を議論する中で高校問題だけがすべてではない。それ以外にも総合教育会議として議論したい内容あったら議論していきたい。

室長：次回につきましては関係団体の意見集約等を基に議論していただきたい。

原教育長職務代理者あいさつ

本日平成28年度のスケジュールが示された。郡上北高の問題は差し迫っており、県教委にも提言できるような取り組みがしていきたい。お疲れ様でした。

【主な決定事項】

※平成28年度総合教育会議のテーマは「郡上の高等学校の将来像（めざす姿）」とする。

※県立高等学校2校と、特別支援学校高等部も含めて議論していく。

※必要に応じて高校問題以外のテーマについても議論していく。